

中心市街地の賑わい再生に取り組む長岡・新潟の2都市―東北支部見学会

鈴木 孝男 新潟食料農業大学 樋口 秀 新潟工科大学

東北支部総務企画委員会では、令和5年8月28日から29日の2日間にかけて新潟県の長岡市と新潟市で現場見学会を開催した。支部会員を中心に、それぞれ長岡市会場19名、新潟市会場12名の参加をいただいた。

1. 米百俵の精神に基づいた長岡市の都市づくり

一日目は、7月に長岡市中心部にオープンしたばかりの「米百俵プレイス ミライエ長岡」で開催した。南正昭東北支部長（岩手大学）の開催挨拶からはじまり、長岡市中心市街地整備室・高頭靖室長、まちなか政策担当・西野靖雄課長よりレクチャーをいただいた。

長岡市は、新潟県の中央に位置しており交通の要衝である。人口26.1万人の中越地域中心地でもある。大規模商業施設が相次いで閉店するなど、まちなかの空洞化が課題となっていた長岡市では、都市機能を集積するために、「行政機能のまちなか回帰」に力を入れている。市民協働による活動や交流を育む拠点としての市民センターやアオーレ長岡（市役所を含む複合施設）等の、市役所機能を意図的に分散配置することで、賑わいや回遊性を創出しようとしている。まちに溶け込んだ「市民と協働する開かれた市役所」スタイルの確立を目指している。

また、「米百俵の精神」の発祥である国漢学校の跡地（坂之上町地区）では、「人づくりと産業振興」を総がかりで支える地方創生の拠点と位置づけられた「米百俵プレイス」が整備されている。本会の会場としたミライエ長岡は、7/22に「まちなか図書館（互尊文庫）」を部分的に先行オープンした施設となっている。閲覧スペースは、飲食、会話、写真撮影が可能でテーブルやイスも工夫されている。とくに若者をターゲットとした居場所づくりを狙った空間となっており、開館から多くの市民に利用されている。中心市街地では建築物の老朽

化が課題となっているが、上記の取り組みにより、中心部の歩行者通行量に回復の兆しが見え始めている。

見学会では、ミライエ長岡（写真1）とアオーレ長岡の他に、長岡震災アーカイブセンターきおくみらい、子育ての駅ちびっこ広場、アオーレ長岡シアター等を視察した。

2. 「にいがた2km」を軸とする新潟市の都心再生

二日目は新潟市に場所を移し、「古町ルフル」新潟市役所ふるまじろを会場に、新潟市都市政策部まちづくり推進課・高島康憲課長より話題を提供いただいた。新潟市は、田園の恵みを感じながら、心豊かに暮らせる日本海拠点都市を目指して、都市機能の充実と拠点性の向上を目指している。とくに、「にいがた2km」と称した都心のまちづくりに官民一体となって取り組んでいる。選ばれる都市となるために、都心中央部を走る東大通では人中心の空間づくりを目指してカフェ、AR体験、早朝ウォーキングなどのイベントの実施など、社会実験が展開されている。市内中心部を横断する信濃川の堤防は、「ミズベリング信濃川やすらぎ堤」として飲食店が設置されイベントで賑わう新しい市民の憩いの場となっている。

また、都心部の建築物の老朽化や低利用地の増加を改善するために、153haの都市再生緊急整備地域を設け、企業誘致の受け皿となる高機能オフィスへの建て替えを後押ししている。併せて、60年ぶりとなる新潟駅のリニューアルにより、万代口と駅南のエリアの連続性やバスターミナル機能の強化を図っているところである。見学会では、ミズベリング（写真2）と工事中的の新潟駅構内を視察することができた。

両市の見学会では意見交換や会員交流も活発に行われた。ご協力いただきました市役所の皆様、ご参加いただいた皆様に深く感謝申し上げます。



写真1 長岡市見学会の様子（ミライエ長岡）



写真2 新潟市見学会の様子（やすらぎ堤）